

うっしっしいー情報2022

9月市



豊岡農業改良普及センター

9月14日に行われましたセリ市全体の平均価格は、去勢が76万2千円、雌が72万6千円でした。

普及センター調べ（税込価格）
（雄を除くため、JA公表数値とは異なります）

地域	去勢			雌			総計	
	頭数	DG	平均価格	頭数	DG	平均価格	頭数	平均価格
赤佐	6	0.952	763,033	3	0.871	727,833	9	751,300
丹波篠山	1	1.007	771,100	3	0.797	622,600	4	659,725
丹波	19	0.922	743,832	8	0.857	714,038	27	735,004
朝来	9	0.996	810,333	4	0.902	854,150	13	823,815
播磨	19	0.894	680,784	20	0.826	641,465	39	660,621
美方郡	55	0.955	776,060	48	0.842	799,081	103	786,788
豊岡	26	0.969	793,100	14	0.822	637,214	40	738,540
養父	22	0.931	759,900	12	0.843	772,658	34	764,403
摂津・神戸	22	0.936	756,750	22	0.835	689,150	44	722,950
県北C	-	-	-	3	0.760	587,767	3	587,767
市場全体	179	0.944	761,901	137	0.837	726,153	316	746,402

9月市種雄牛ランキング

順位	種雄牛	去勢			雌			総計	
		頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均価格
1	芳悠土井	16	1.002	835,588	11	0.829	706,500	27	782,996
2	忠味土井	33	0.936	747,967	28	0.845	771,846	61	758,928
3	丸若土井	37	0.934	771,041	25	0.841	722,524	62	751,477
	総計	179	0.944	761,901	137	0.837	726,153	316	746,402
4	藤彦土井	13	0.949	767,715	6	0.852	697,033	19	745,395
5	丸池土井	19	0.922	752,747	14	0.850	727,571	33	742,067
6	照和土井	20	0.941	729,025	17	0.856	728,006	37	728,557
7	照忠土井	9	0.924	717,444	9	0.797	723,189	18	720,317
8	丸春土井	5	0.975	800,360	9	0.836	662,933	14	712,014

価格は税込み (10頭以上の出荷があった種雄牛のみ記載)

ランキング種雄牛の育種価

	種雄牛	枝肉重量	ロース芯面積	バラの厚さ	皮下脂肪厚	歩留	脂肪交雑
1	芳悠土井	A	B	B	B	B	A++
2	忠味土井	B	A+	A	A → B	A+	A++ → A+
3	丸若土井	A	A++	A++	A	A++	A++ → A+
4	藤彦土井	A++	A++ → A+	A → B	D	C → D	A+
5	丸池土井	D → C	A+++ → A++	D	B	A++	A++
6	照和土井	A+	A+	C → A	B → A	A	A+
7	照忠土井	B → C	A++	A	A+	A++	A
8	丸春土井	B → C	A	B → C	B	A	A++



北部農業技術センター提供 (育種価評価は令和4年2月現在)

母牛の配合飼料給与について

維持期～分娩まで

健康に子牛を育てるためには、分娩前の母牛をしっかりと管理することが重要なポイントです。特に飼料給与は、細かな配慮を心がける必要があります。現在、飼料代が高騰し、経営を大きく圧迫しており、個体に応じた飼料給与を行うことで、無駄な出費を抑えましょう。そこで今回は、繁殖雌牛の維持期から分娩前までの配合飼料の給与について考えていきましょう。

1 維持期（離乳・受胎確認後～分娩2ヶ月前）の給与について

この期間は、太った牛や痩せた牛の体型を整えるため、個体ごとに飼料給与量を調整する必要があります。繁殖雌牛の維持期の配合飼料給与量は、一日あたり1kg（初産、2産牛は、2kg）を目安に給与するとされています。しかし、牛の大きさの違いや粗飼料（乾草等）の品質差で配合飼料の給与量が大きく変わってきます。

牛の大きさの違いによる飼料給与量の計算結果では、体格が大きめの牛は標準の牛より0.5kg配合飼料を増給する必要があります（表1）。粗飼料の品質差では、スーダン乾草をイタリアンストローに代えた場合、0.4kg配合飼料を増給する必要があります（表2）。

このことから、維持期における配合飼料の給与量は、一律に1kg給与ではなく、牛の大きさや粗飼料の品質に合わせた飼料給与を行う必要があります。さらに、牛が太っているのか痩せているのかを客観的に判断し、配合飼料給与量の増減を行います。牛の栄養度は、背骨及び肋骨、き甲、腰角及び臀部、尾根部のそれぞれの区分の状態から判断されますが、見分けるにはかなりの熟練を要します。そこで、簡易に牛の栄養状態を判断する方法を示します（図1）。尻尾の付け根の横にある座骨（右図の赤い丸印の部分）の脂肪のつき具合で判断します。座骨の上に脂肪の厚みを感じられたら給与量を減らします。また、座骨の上に脂肪がなく角張ってくれば、給与量を増やします。減らず給与量は1日500gまでとし、極端な減量は避けます。その後は、座骨の状態を確認しながら、普通の体型を目指しましょう。

表1 飼料給与量の計算結果1

牛の条件	体格	標準	大きめ
	体重 (kg)	430	480
	産次数	3	3
	給与時期	維持期	維持期
飼料給与量 (kg)	繁殖用配合飼料	1.0	1.5
	稲わら	2.5	2.5
	スーダン乾草	3.0	3.0
充足率 (%)	乾物量(DM)	101	100
	たんぱく質(CP)	101	107
	エネルギー(TDN)	107	109

日本飼養標準・肉用牛(2008年版)

表2 飼料給与量の計算結果2

牛の条件	体格	標準	標準
	体重 (kg)	430	430
	産次数	3	3
	給与時期	維持期	維持期
飼料給与量 (kg)	繁殖用配合飼料	1.0	1.4
	稲わら	2.5	2.5
	スーダン乾草	3.0	-
	イタリアンストロー	-	3.0
充足率 (%)	乾物量(DM)	101	105
	たんぱく質(CP)	101	101
	エネルギー(TDN)	107	117

日本飼養標準・肉用牛(2008年版)

2 分娩前2ヶ月前～分娩までの給与について

分娩2ヶ月前になると、胎仔の急速な発育にあわせて配合飼料を増給します。増給する給与量の目安は、分娩1ヶ月前までは維持期給与量の+500g、分娩1か月前から分娩までは、さらに+500gを目安にします。ただし、この期間は、維持期のように体型の調整はできません。これは、太った牛の体型を調整しようとして分娩前後の母牛が低栄養状態となると、生まれてくる子牛の免疫機能が低下するとされているためです。子牛の血液成分を母牛が低栄養にさらされた群（低栄養群）と適切に栄養管理された群（適栄養群）で比較すると、免疫活動性の指標値が、低栄養群で有意に低く、免疫機能が低下する可能性を示しています（表3）。

また母牛の低栄養は、生まれてくる子牛への影響だけでなく、次産に向けた繁殖性も低下させます。一般的に原始卵胞は成熟した卵胞になり排卵するまでに約80日～100日の期間が必要とされています。よって初回種付け時期（分娩後50日～100日）に成熟を迎える原始卵胞が発育し始める時期は、分娩50日前から分娩までとなります（図2）。この時期に母牛が低栄養にさらされると、卵胞の発育に影響を与えるため、初回授精の受胎率低下や、早期胚死滅のリスクが高まると考えられています。よって分娩2ヶ月前から分娩までは、牛が痩せることがないように気をつけて飼料給与を行いましょう。

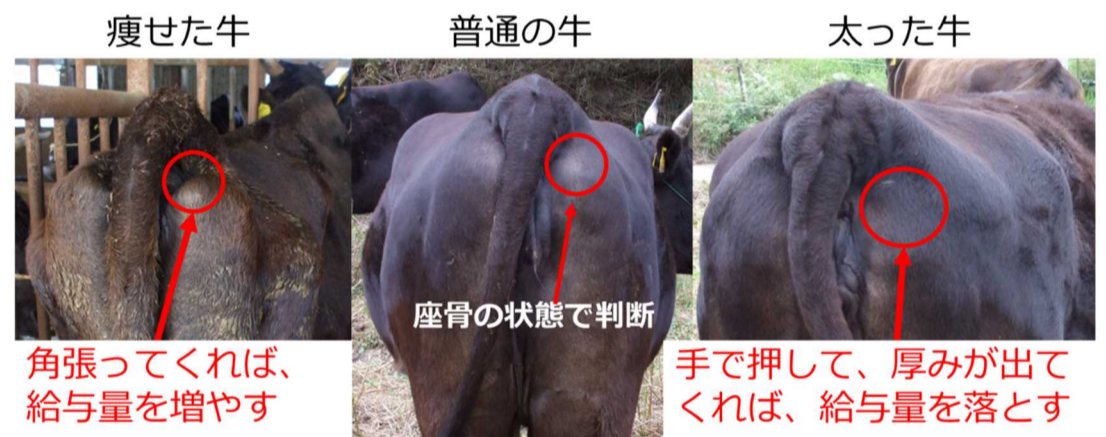


図1 簡易な栄養度の判定方法

表3 子牛の日齢別末梢白血球解析

(兵庫県共済連東播磨畜産診療所 芝野ら 2008)

	～30日齢	31日～60日齢	90日齢～
CD4+/CD8+ ※1	低栄養群 0.38	0.29	0.31
	適栄養群 3.83	6.23	4.96

※1:免疫活動性の指標

*:両群間に有意差p<0.05

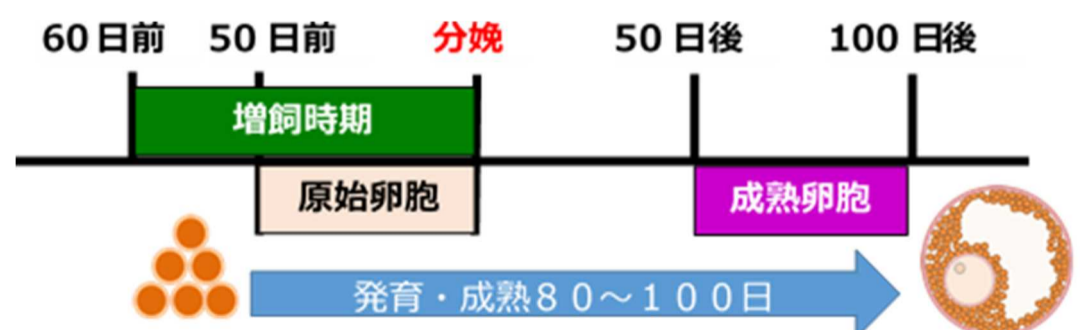


図2 原始卵胞から成熟卵胞への発育・成熟

Point

- ・維持期の配合飼料は、母牛の体格や粗飼料の品質に合わせて給与しましょう
- ・栄養度の調整は、維持期に行いましょう
- ・分娩2ヶ月前の増飼いは、子牛の免疫力を高め、次産に向けた繁殖性を向上します